



Q146. マズローの欲求5段階説の2つめは？



A. 「安全欲求」と呼ばれるものだよ。

さて、訳の解らない場所だけど、食べ物の確保ができたとするよ。
なんとか食べられるものを見つけ、飲むことができる水も確保した。
そこで次には何を欲しいと思うだろうか？

「[生理的欲求](#)」が満たされると、次に出てくるとされるのが「安全の欲求」だよ。
安心して過ごしたり寝られたりする場所や、飢えないで済む、という安心感だね。
危険なことから身を守りたい、ということも含まれているよ。

「安全の欲求」というものは、安心して暮らしていけることへの欲求で、身を守ることへの欲求なんだ。

なので、主に災害や事故にあったとき、病気になってしまったときに強く表れるよ。
現在、災害や紛争が起きている地域で、命の危険がある場所に置かれたら、すぐに逃げ出したいと思うはずだね。

災害などの心配がない経済的に発展した地域での「安全の欲求」は、生活面だけにとどまらなくて、仕事や社会環境([福祉](#)などのセーフティーネットなど)を求めるといっても表面化してくるよ。
目に見えない概念的な安定のことで、健康状態や経済的・情緒的な安全や、暴力からの安全などだね。

何か食べようと困ったときに、いつも同じものを選んでしまうということも「安全の欲求」のひとつの現れだよ。

大人と子どもでは現れ方が違うとされているのが面白いところ。
子ども、特に幼児の場合は、安全の欲求を求めようとする行動がとても多く見られるよ。
誰かに守ってもらえないと生きていけないことを知っているんだ。

大人になると、経験値が上がるので、危険や恐怖に対して耐性ができている。
物事に対処する力が身についてきて、反応を抑え込むことを覚えるので、安全の欲求はそれほど目立たないものなんだ。
さまざまなことに挑戦して体験する、ということは大切なことなんだよ。

[放課後等デイサービス](#)における「安全の保障」は、怪我なく無事に過ごせるように預かる、ということではないね。

それは、人と関わるうえで押さえておかなければいけない基本姿勢であって、怪我(事故)がないから役割を果たしている、ということではないんだね。

その場所が自分の居場所である、と子ども本人が納得しながら、安心して取り組めるものがある、という状態こそが放課後等デイサービスにおける「安全の保障」だね。

頑張っているのに失敗ばかりしてしまう、自分は楽しいから続けたいと思っているのに終われないと叱られてばかりいる、やめると言いたかっただけなのに手も動いてしまった。

こういったことが目立ってしまって注意されることが増えると自己肯定感が下がってしまうよね。まずは、もっと簡単なことに取り組んでみる、自分の気持ちをコントロールする方法を探ってみる、といったことが動機の主になるよ。

安全な場所が保障されて、安心して関われる人が保障されて、楽しいと思うことに取り組むことが保障される。

そうすると子どもたちは次には、この安全な状態を維持したい、と思うようになるよ。

だから、怪我なく無事に過ごせるように預かる、ということだけではないんだ。

子どもたちから、自分たちの事業所を安全で楽しい、安心できる人がいるところと認識してもらおう。その中で、子どもひとり一人に必要な能力の獲得や習得を目指していく。

「次回もこの場所での過ごし方が保障されている」という安心感を、子どもたちに持ってもらうなければいけないんだ。

いつ環境や過ごし方が脅かされるかわからない、という不安定な状態から、少しでも秩序があって安心できる環境で過ごしたい、という欲求が「安全の欲求」と呼ばれるものなんだ。

子どもひとり一人を取り巻いている環境因子はそれぞれだから、どれがその子どもにとっての安全なのか、の判断は難しいところだけれどね。

その子どもにとっての「安全の欲求」が満たされると、次の「社会的欲求」を抱く状態に移行していく、と言われているよ。

[《MENU》](#)

[《マズローの欲求5段階説の1つめは？》](#)

[《マズローの欲求5段階説の3つめは？》](#)

放課後等デイサービス支援事業
Support Project of
Day-service for After-school
At Kyoto

2023-08-21 掲載